第２回地域連携コンソーシアム記録様式

【関係機関グループ】

| |
|---|
| 田中 勉委員、佐藤慶子委員代理、斎藤雅和委員、高橋智子委員<br>◎三浦智己（生涯学習課）、〇佐藤賢輝（生涯学習課） |

協議題：「連携～支援員の確保と情報提供の課題解決に向けて～」

【協議の報告】

①今年度の取組について

＜支援員の確保＞

・ボランティア講座で支援員育成に携わった

・障害福祉サービス事業所のスタッフが講座に参加

・ボランティア募集

＜情報提供＞

・総合相談会での情報提供（資料配付）

・学校への資料配付

・ホームページ、広報、会報、新聞、ポスター等の活用

②アイディア、提案等

＜支援員の確保＞

・Ｗｅｂを活用（オンライン講座）することで、障害や移動の困難さに対する支援を行う。

・ｅ－スポーツを活用する。

・障害の軽い人に支援員として活動してもらう（作業学習の成果を発揮する機会提供する）。

・障害当事者の得意なことを生かして支援する立場になってもらう。

＜情報提供＞

・スマホを活用した情報提供をする。

・メール登録システムを活用して、学びたい人へ情報を届ける。

③今後取り組みたいこと（協議グループのまとめ）

・障害や生涯学習について、まずは知ることから始める。

・障害当事者が支援員として活動する。

・既存の会議等で「障害者の障害学習」について話題提供する。

【各委員の今後取り組みたいこと】

・学校生活の中で生涯学習を意識することが少ないため、在学中から生涯学習に関わることを意識する。（高橋　氏）

・ＨＰの見直しと障害者の生涯学習（スポーツ）に誘って一緒に取り組む。（佐藤　氏）

・自身のネットワークを活用し情報提供する。（田中　氏）

・ボランティア講座の受講者や秋田大学の学生に、障害理解や障害者の生涯学習について情報発信する。（斎藤　氏）

第２回地域連携コンソーシアム記録様式

【事業所グループ】

| |
|---|
| 佐藤千枝子委員、小松由美委員、奈良克久委員、◎安藤郁子副委員長、〇菊地 智（生涯学習課） |

協議題：「連携～今年度の成果と今後の展望～」

【協議の報告】

①今年度の取組について

・連携する取組の中で、参加者が固定化された。

・関係者でも、取組を知らないということもあった。情報が伝わっていない。

・商工会議所や商店街と連携した「ほっと大仙」の取組は、利用者のスキルアップや社会参加に結び付いていた。

②アイディア、提案等

・自立支援連携協議会と連携を密にしていく。

・特別支援学校だけでなく、ほかの学校（高等学校等）との連携も大切である。

・当事者が講師となる取組（ワークショップ等）をする。

・関係者の人材育成を進める。

・関係機関同士のつながりや行政同士の連携を生かす。

③今後取り組みたいこと（協議グループのまとめ）

・協議の報告②と同じ

【各委員の今後取り組みたいこと】

・「事業所がまちに溶け込むための取組」「事業所を知ってもらうための取組」「利用者が地域で暮らすための取組」

→（上の取組の具体例）（地域住民が）「行きやすくなった」と思えるように、事業所の場所を貸し出す。また逆に、事業所が他所へ出て行く。

【講評等】

・既存の会議を活用するなど、取り組みやすいところで連携していけるのではないか。

・モデル事業でたくさんの成果があるが、広め方が大切である。県のホームページだけでなく、各地域の基幹相談支援センターのホームページなどに一元化した情報があるとよい。

・興味ある人しか情報を得ようとしない。連携を生かして、いかに実際に見てもらえるような広報ができるかが重要である。（口コミも強い）

第２回地域連携コンソーシアム記録様式

【自治体グループ】

| |
|---|
| 武藤寛幸委員、藤原智彩子委員代理、長崎雪子委員代理、◎山口香苗委員、〇田口　圭（生涯学習課） |

協議題：「連携～市町村・県関係各課、障害保健福祉圏域（※）内の市町村間のつながり～」

【協議の報告】

①今年度の取組について

・誰もが参加しやすい講座の開設・呼び掛け・運営

・受講希望者との事前打合せ（対応の可否や必要な支援方法の確認）

・生涯学習奨励員の支援者研修機会設定

・関係各課や施設との連携や各実施講座での障害者受入れ依頼

・関係各課との連携・協力による講座の開設・運営（各課職員の支援者協力）

②アイディア、提案等

・若者や県外出身者の活用（学生ボランティアの募集やイベントへの協力依頼）

・他講座のボランティアへの周知による障害者の講座への意識づけ

・障害当事者の受講意欲を高めるための多様な人々との交流の場づくり

・地域資源の活用（県立大学や学校、事業所等）や民間との連携

・障害当事者を講師とした講座の開設

③今後取り組みたいこと（協議グループのまとめ）

・講座の周知方法とチラシへの記載内容の工夫をする。

・人材育成（事業所や特別支援学校等の職員に講師依頼）をする。

・条件が整った施設を活用した講座の開設をする。

・講座前の事前打合せによる必要な支援の確保（手話通訳者など）をする。

・障害者の生涯学習事業の予算確保をする。

【各委員の今後取り組みたいこと】

・障害当事者の講座参加のための移動手段の検討をする。

・障害当事者が、対面の講座に参加する意欲を高めるために、人のつながりづくりをする。

【講評等】

・自治体によって連携箇所が異なり、広がりも違っている。

・事業の推進に当たっては、施設面（バリアフリー）と心理面（障害理解）の課題をクリアしていく必要がある。

・日頃から連携できる関係性づくりが大切である。

第２回地域連携コンソーシアム記録

【学校グループ】

| |
|---|
| 佐藤圭吾委員、伊藤登美子委員、近藤千春委員、佐々木朋広委員代理<br>◎藤井慶博委員長、〇渡辺智一（生涯学習課） |

協議題：「連携～在学時からの社会教育施設等の活用と市町村生涯学習課等とのつながり」（学校教育段階から生涯学習への意欲を高める指導・社会教育との連携を図った教育活動の推進）～」

【協議の報告】

①今年度の取組について

・職員も同行し、公民館講座に生徒が参加している。同窓生の集いでも公民館講座を利用している。

・人材ボランティアの方に学習（ズンバや剣道など）に来ていただき、つながりを作っている。また、学習の中で卒業後の過ごし方も考えている。

・講座スタッフとしてアウトドアマルシェに生徒が参加した。愛光園職員が来校し、打合せを行っている。愛光園の講座は、ドローン利用など参加しやすい講座が多い。

・青年学級を年４回実施し、ニュースポーツやｅスポーツで地域の力を借りている。かたりあん音楽祭や土崎キタスカ陶芸教室等は、交通の便がよいので活用できている。

②アイディア、提案等

参加したくなる魅力ある障害者の生涯学習コンテンツを増やす

・目標に向かって活動を積み上げていくコンテンツ

（愛光園のモルック大会は、練習した成果を大会で披露することで意欲が向上）

・居場所になる、仲間と集えることを目的としたコンテンツ

・参加者のやりたい企画を実現できるコンテンツ

・参加者の役割を固定しないコンテンツ

（受講者、指導者、運営側、企画側など、フレキシブルな役割で参加できる）

③今後取り組みたいこと（協議グループのまとめ）

・市町村の担当課、公民館担当と顔の見える連携を行い、ともにコンテンツの企画を行ったり、情報共有を行ったりする。

・コミュニティ・スクールの機能（学校運営協議会）を生かして、地域の人材活用を活性化する。

・コロナ禍で停滞した支援者づくり（マンパワー）に力を入れる。

・従来は、社会教育施設等を利用する際のマナー等の伝達が優先され、利用したいという気持ちがなかなか喚起されなかった。楽しくないと続かないので、社会教育施設の楽しさを伝えられるよう、授業内容を見直す。

【各委員の今後取り組みたいこと】

協議の報告③に記載

【講評等】

・現状では、市町村担当課や社会教育施設と学校の連携は少ない。

・市町村側にも、共生社会を進めていこうとするマインドがあることが分かった。

・今後は、まずは顔の見えるつながりづくりから始め、連携しながら魅力あるコンテンツを増やしていければよいのではないか。

・「楽しくなければ続かない」ので、利用者が楽しさを感じられるよう工夫しながら取り組んでいくことで、障害者の生涯学習はさらに充実していくと考える。